J.Michael

サックス

取扱説明書

安全上のご注意	2
ご用意いただくもの	2
各部名称	3
演奏前の準備	4〜9
1. マウスピースのセット	4〜5
2. 本体の組み立て	5〜7
楽器の置き方	7
3. 楽器の構え方	8〜9
4. チューニング	9
保管上の注意	9
演奏後のお手入れ	10〜12
1. 管内のお手入れ	10
2. タンポのお手入れ	11
3. 楽器表面のお手入れ	12
4. ネックとマウスピースのお手入れ	12
サックスのよくある質問	13〜15

J.Michael

輸入総発売元

マックコーポレーション株式会社

〒452-0821 名古屋市西区上小田井1-7
TEL.052-505-4680 FAX.052-505-4681

www.maccorp.co.jp

この度は、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
本製品をご使用になる前に、本取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性質等を十分にご理解いただきますようお願いいたします。

⚠ 安全上のご注意

●オイルや小さな部品類をお子様が口にしない様、ご注意ください。

●ぶつけたり、落下や転倒によって変形する恐れがあります。外観を損なうだけでなく、演奏に支障をきたす恐れがあります。取扱いには十分ご注意ください。

●楽器を火気に近づけないでください。
火災やけがの原因となることがあります。

●楽器を投げたり振り回したりしないでください。部品が抜け飛んだり、楽器の一部が当たると危険です。

●調整、修理が出来なくなる恐れがありますので改造はおやめください。
補償の対象外となります。

●やむを得ず先端が尖った部位がございます。
取扱いの際には十分ご注意ください。

ご用意いただくもの

必要なもの

●コルクグリス	ネックのコルク部に塗ることでマウスピースが抜き差ししやすくなります。
●スワブ	管内にたまった水分を取り除きます。 管体用とネック用の大小2枚、用意すると便利です。
●クリーニングクロス	管体表面の汚れを拭きます。
●クリーニングペーパー	タンポとトーンホールの間にたまった水分を取り除きます。
●ガーゼ	水分やグリスを拭き取ります。

あったら便利なメンテナンス用品

●リードケース	収納時、リードの変形を防止できます。
●ラッカーポリッシュ	ラッカー仕上げの楽器の表面を研磨し、汚れを取り除きます。
●シルバーポリッシュ	銀メッキ仕上げの楽器の銀の変色を磨き取ります。

各部の名称

1 マウスピースのセット

1 ケースからマウスピースセット・ネックを取り出します。
マウスピースからキャップ・リガチャーを外します。
ネックのコルク部にコルクグリスを塗ります。

2 マウスピースをネックに差し込みます。
このとき、ネックに付いているキイになるべく力がかからないように持ちます。
キイが曲がると正しく音が出なくなります。
図の青い部分に力が入るようにすると良いでしょう。

ネックの持ち方

コルクの 1/4 程度が見える位置まで差し込みます。

3 リードを水でほどよく湿らせます。
リガチャーのネジを緩めてからマウスピースにはめ、上からリードを差し込みます。

リードの位置を決め、リガチャーのネジを締めてリードを固定します。
リードの先端とマウスピースの先端をそろえ、左右も真っ直ぐにします。

注意!

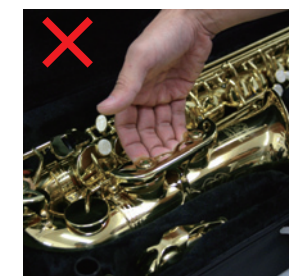
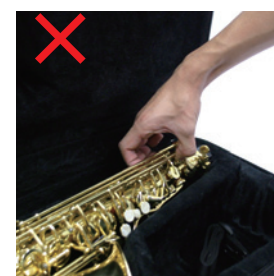
リードの先端は非常に薄く簡単に割れてしまい、「音が出にくくなる」、「音に雑音が入る」などの原因となります。
取り扱いには十分ご注意ください。

4 キャップをはめ、安全な場所へ置いておきます。

2 本体の組み立て

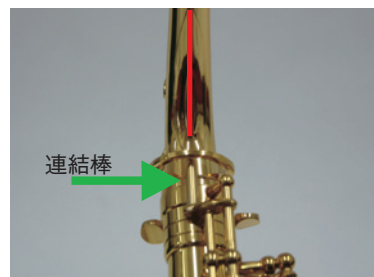
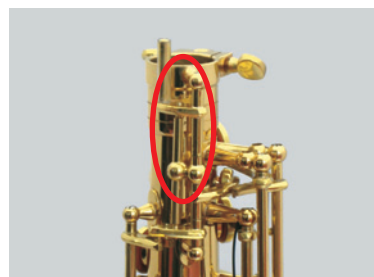
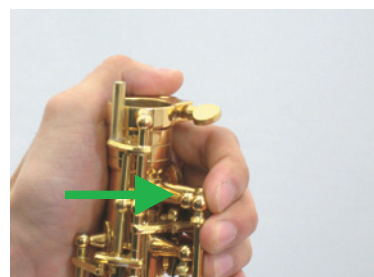
注意!

管体を取り扱う際はキイに無理な力がかからないように注意してください。
また、楽器をぶつけたり落としたり、乱暴に扱わないように十分にご注意ください。

1 本体をケースから取り出します。　ベルの中に手を入れると、楽に取り出すことができます。

注意!

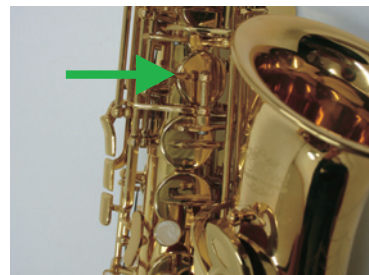
ケース内でのキイの故障を防止するためにエンドキャップ（黒いプラスチック製のキャップ）が付いています。
収納時に必ずご使用ください。

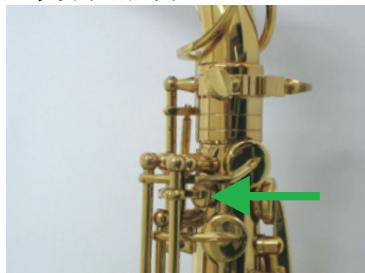
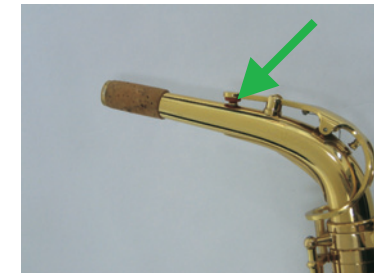
2

ネックを差し込み、位置を決めてからネック締めネジを締め、ネックを固定します。
この時、なるべくキイに力がかからないように持ちます。

ネックの中心とオクターブキイの連結棒が一直線上に揃うように合わせます。

丸の部分に無理な力が加わらないように注意してください。

矢印のポストを支えるように持つか、ベルに手を掛けて持つと良いでしょう。

3

キイが正常に動作するか確認します。特にロウオクターブキイ、ハイオクターブキイ、G#キイ、LowC#キイはタンポが貼りつきやすいので必ず確認してください。

G#キイ

LowC#キイ

ロウオクターブキイ

ハイオクターブキイ

楽器の置き方

なるべくキイに負担のかからない向きに置きましょう。

- ソプラノサックス

- アルトサックス
- テナーサックス

- バリトンサックス

3 楽器の構え方

● ストラップの取り付けと長さの調節

1 ストラップを首にかけます。
ストラップを楽器に引っ掛けます。

2 楽器を構えた際にマウスピースが自然と
口元に来るようにストラップの長さを
調節します。

● 立奏の場合

● 座奏の場合

● 左手

● 右手

演奏前の準備

左手の親指は、サムレスト（黒いプラスチック）の上に、右手の親指はサムフック（金属製の
フック）に添えます。

注意！

椅子から立ち上がるときや、移動するとき、楽譜に書き込むときなど、
楽器をストラップのみで支えず、必ず手を添えて支えてください。
また、リードの保護の為にマウスピースにキャップをはめましょう。

4 チューニング

チューニングはマウスピースを抜き差しさせて
行います。

チューニングは気温の影響を受けやすいので、
事前に息を吹き込み、楽器を温めてから行って
下さい。

保管上の注意

- ケースに収めた状態で保管しましょう。
- 車の中など、高温になりやすい場所や、
  湿度が極端に高い場所では保管しないで
  ください。
- ケースを倒したり、ぶつけるなど強い衝撃
  が加わると、中の楽器が壊れる場合があり
  ます。

演奏後のお手入れ

演奏後は必ず管内の水分を取り除いてください。

1 管内のお手入れ

注意！

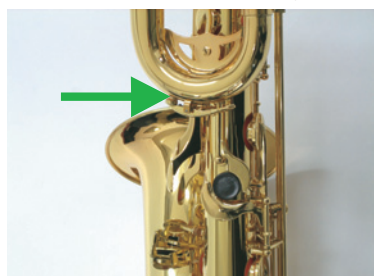
管体を取り扱う際はキイに無理な力がかからないように注意してください。
また、楽器をぶつけたり落としたりすると、音が出なくなることがありますので十分に
気をつけて取り扱ってください。

1 楽器からストラップを外します。

2 ネック締めネジを緩め、ネックを本体から外します。
マウスピースにキャップをはめて安全な場所に置いておきます。

3 本体にスワブを通します。ネックとジョイント部の水分をガーゼで拭き取ります。

注意！ スワブは丸まった状態で使用すると管内で引っかかり抜けなくなることがあります。必ず広げてから使用してください。
スワブが途中で引っかかり抜けなくなった場合は、無理に引き抜こうとせず、反対の方向から引き抜いてください。それでも抜けない場合は修理に出しましょう。

● バリトンサックスの場合
ウォーターキイから水分を抜きます。

4 エンドキャップを付けます。
ネック締めネジは締めないでください。

2 タンポのお手入れ

注意！

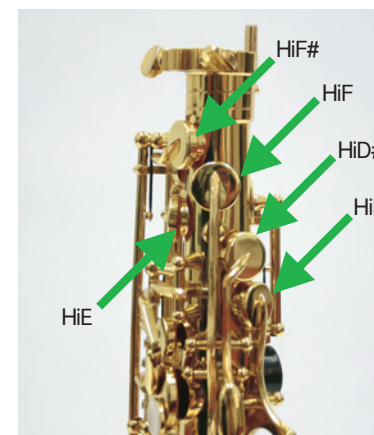
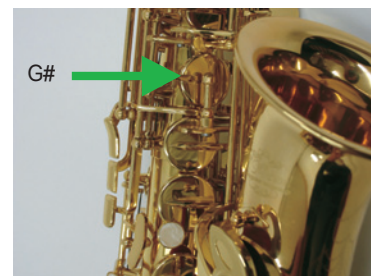
演奏後は、タンポとトーンホールの間の水分をできるだけ取り除きましょう。
タンポは水分の影響を受けやすいため、メンテナンスを怠ると劣化の原因になります。

1 タンポとトーンホールの間に残っている水分を取り除きます。

キイを開き、クリーニングペーパーを挟みます。
もう一度キイを開き、クリーニングペーパーを抜き取ります。
一度で水分を取り除けない場合は、乾いた部分を使用し数回繰り返します。

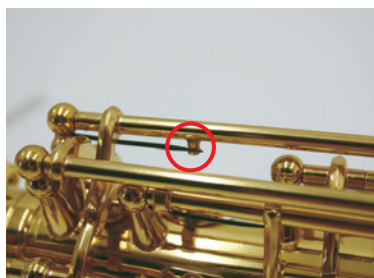
注意！

キイを閉じた状態でクリーニングペーパーを引き抜かないでください。
タンポの面が痛む原因になります。

クローズキイを中心に、ネックに近いキイほど水分が溜まりやすいのでチェックしましょう。

3 楽器表面のお手入れ

クリーニングクロスで本体の汚れを拭き取りましょう。

注意! バネの先端が尖っているため、けがをしないよう注意してください。

注意! バネやコルクがクロスに引っかかり外れることがあります。

ネックとマウスピースのお手入れ

1. キャップを外しリガチャーのネジを緩め、マウスピースからリードとリガチャーを外します。
リードは表面の水分を軽く拭き取り、リードケースに入れます。

2. マウスピースをネックから外します。
マウスピースの水分と差込部分に残っているグリスを拭き取り、リガチャー・キャップをつけケースに収めます。

注意! ネックのキイになるべく力がかからないように持ってください。

注意! リードをつけていない状態でリガチャーのネジを締めすぎるとリガチャーが変形する恐れがあります。

3. ネックにスワブを通します。ジョイント部の水分も拭き取ります。
ネックのコルク部分に残っているコルクグリスをガーゼで拭き取ります。
クロスでネックの汚れを拭き取り、ケースに収めます。

楽器が壊れちゃったかも?!
こんなときはどうしたらいいの?!
あなたの疑問、マイケルくんが解決します☆

音がおかしくなった、出ない音、出にくい音がある

リードの状態は良いですか?	リードが乾燥しているとうまく振動せず、音が出ないことがあります。演奏前には舐めて湿らせてからマウスピースにセットしましょう。また、休憩のときなどはマウスピースキャップをして乾燥を防いだり、一度リードを外しておくと良いでしょう。 先端が欠けてしまったリードは、音が出にくくなったりノイズの原因になることがあります。
オクターブキイは正常に動作していますか?	オクターブキイを押さえていないのに音が裏返ったり、オクターブキイを押さえても高い音が出なくなったりする → ネック、マウスピースの組み立て時に、ネックについたオクターブキイを変形させてしまうことがあります。正常に動作しているか確認してみましょう。正常に動作しない場合は、修理に出しましょう。 ・オクターブキイを押していないとき(低シ♭〜ド#) → ネックのキイも本体のオクターブキイも閉じている(本体から上に延びているキイとネックのキイは接していない) ・オクターブキイを押しているとき(レ〜ソ#) → 本体のオクターブキイが開く(ネックのキイは閉じている) ・オクターブキイを押しているとき(ラ〜高ファ#) → ネックのキイが開く(本体のオクターブキイは閉じている)
クローズキイは正常に動作していますか?	G♯→G、LowC#→Cになってしまう → キイにはオープンキイ(開いていて、押さえると閉じるキイ)とクローズキイ(閉じていて、直接または連携されたキイを押さえると開くキイ)があります。クローズキイではタンポがトーンホールに貼りついてしまうことがよくありますが、バネの力を利用して連携させてあるG♯キイ、LowC#キイでは、キイの動作をしても連携されたバネの力だけではタンポが剥がれず、キイが開かないことがよくあります。 演奏前にはこの箇所が正常に動作することを確認し、貼りついている場合は指で軽く剥がしましょう。 また演奏後にこの付近の水分や汚れをきちんと取り除いてから収納しましょう。 演奏中にも貼りついてしまうなど症状がひどい場合には、タンポを交換するなどの処置も必要になってきますので修理に出しましょう。
タンポの状態は正常ですか?	音抜け、音程が悪くなった → タンポの劣化、コルクなどの劣化、キイの歪み、キイ同士のバランス崩れなど、様々な原因によりタンポがトーンホールをうまくふさいでいない状態になると、音抜け、音程が悪くなります。この場合は修理に出しましょう。

キイの動きが悪くなった

バネは外れていませんか?	管体にはいくつもの針バネが掛かっています。お手入れのときにクロスでひっかけてしまうなど、バネが外れてしまうことがあります。バネが効いていない箇所がないかチェックして、あれば掛け直しましょう。
	バネが劣化して折れてしまったり、また、バネが刺さっている支柱の穴が広がって抜けてしまったりすることもあります。この場合は修理に出しましょう。
楽器本体を落としたりぶつけたりしませんでしたか?	キイの部分をぶつけて曲げてしまったり、管体をぶつけてしまって歪みが起きたりすると、キイの動きが悪くなることがあります。この場合は修理に出しましょう。
	ケースの中に楽譜ファイルなどを一緒に入れたりすると、気づかないうちにキイを圧迫してしまうことがあります、余分なものを入れないようにしましょう。

キイを動かすとカチャカチャと異音がする

コルクやフェルトなどのパーツが消耗していませんか?	キイの足などについているコルクやフェルトが消耗すると、異音の原因になるだけでなく、キイの開きなどにも影響し、音程まで悪くなってしまう可能性があります。この場合はパーツ交換が必要なので、修理に出しましょう。
キイオイルが不足していませんか?	キイとポストの間などにキイオイルが不足すると異音の原因になるだけでなく、キイの動作不良にもつながります。この場合はキイオイルを注しましょう。
キイが変形して管体や別のキイに当たっていませんか?	キイの部分をぶつけて曲げてしまったり、管体をぶつけてしまって歪みが起きたりすると、異音の原因になるだけでなく、キイの動作不良にもつながります。この場合は修理に出しましょう。
	ケースの中に楽譜ファイルなどを一緒に入れたりすると、気づかないうちにキイを圧迫してしまうことがあります、余分なものを入れないようにしましょう。
ネジが緩んでいませんか?	キイガードやキイポストなどのネジが緩んでいる場合は締め直しましょう。バランスネジなど、締めすぎてはいけないネジもあるので注意が必要です。

キイ(タンポ)がくっつく、べたつく

クローズキイは正常に動作していますか?	キイにはオープンキイ(開いていて、押さえると閉じるキイ)とクローズキイ(閉じていて、直接または連携されたキイを押さえると開くキイ)があります。クローズキイではタンポがトーンホールに貼りついてしまうことがよくありますが、特にバネの力を利用して連携させてあるG♯キイ、LowC♯キイでは、キイの動作をしても連携されたバネの力だけではタンポが剥がれず、キイが開かないことがよくあります。演奏前にはこの箇所が正常に動作することを確認し、貼りついている場合は指で軽く剥がしましょう。また演奏後にこの付近の水分や汚れをきちんと取り除いてから収納しましょう。演奏中にも貼りついてしまうなど症状がひどい場合には、タンポを交換するなどの処置も必要になってきますので修理に出しましょう。
タンポに水分や汚れがついていませんか?	演奏後に管内の水分をよく取り除かないと、タンポのべたつきや劣化の原因となります。管体にスワブを通した後には、クリーニングペーパーなどを使用し、タンポに残った水分をよく取り除きましょう。吹き口に近いトーンホールほど水分が溜まりやすいので、Highキイ、左手主鍵を中心にチェックしましょう。また、演奏中にトーンホールから水分が流れてくることもあります。その都度息で吹き飛ばしたり、クリーニングペーパーを使用すると良いでしょう。べたつき対策の商品を試してみるのも良いかもしれませんが、症状がひどい場合には、タンポを交換するなどの処置も必要になってきますので修理に出しましょう。

小指が届きにくい

楽器に対して手を上から斜めに構えてしまうとどうしても小指が遠くなり、そのキイを押さえるときだけ押さえにくく感じます。肘を下げ、楽器に対して手を真横から、まず5本の指がきちんと届く位置で構え、小指を使わない音のときにもキイからあまり指を離さないようにすると操作しやすいでしょう。

サックスのよくある質問

マウスピースがきつくて入らない、ゆるくて止まらない

コルクグリスは塗りましたか?	マウスピースがきつい場合 → 使用していくとコルクがつぶれてくるので、新品の状態では少しきつめになっています。グリスをコルクに塗ってもきつい場合は、マウスピースの内側にも少量のグリスを塗ってみましょう。
コルクは劣化していませんか?	マウスピースがゆるい場合 → 使用していくとコルクがつぶれてきて、だんだんゆるくなります。演奏中に動くほどゆるくなる前に、コルク交換の修理に出しましょう。
マウスピースを替えましたか?	付属品以外のマウスピースを使用する場合は、マウスピースに合わせてコルクを削ることが可能です。マウスピースと一緒に調整に出しましょう。

ネックが入らない、ネジを締めても動いてしまう

ネックやネック受け部に汚れや古いグリスが溜まっていませんか?	ネック部は金属どおしのジョイントをネジで締める箇所なので、グリスは不要です。この部分に汚れや古いグリスが溜まったり、またしばらく使用しないで錆がある場合などは、ていねいに拭き取りましょう。
ネックを差し込まずにネジをきつく締めませんでしたか?	ネックを本体に差し込んでいない状態でネック締めネジをきつく締めると、本体のネック受け部が縮まってしまい、ネックがきつくて入らなくなります。収納時にはエンドキャップをはめ、ネジは緩めたままにしておきましょう。きつくなってしまった場合は修理に出しましょう。
縦方向に動かしながら抜き差ししていませんか?	ジョイント部は金属どおしなので、磨耗や変形していくことがあります。ネックと本体を抜き差しするときに縦方向にカタカタさせていると、ジョイント部が広がりやすくなってしまいます。ネックを曲げないように注意しながら、横方向(円周方向)に少しの幅で動かし、抜き差しするようにしましょう。緩くなってしまった場合は修理に出しましょう。

スワブが抜けなくなった

スワブは広げて通しましたか?	スワブが丸まったり重なったりしたまま通すと、管内で詰まってしまうことがあります。必ず広げてから通すようにしましょう。引っ掛かったと思ったら無理に引っ張らず、入れたほうに戻して抜き、通し直してください。それでも抜けない場合は修理に出しましょう。

楽譜に書いてある音と実際に出ている音が違う

管楽器には移調楽器が多く、サックスもそのひとつです。「調子＝B♭」と記してあるソプラノサックスやテナーサックスは「B♭管(ベー管)」と呼ばれ、記譜の「ド」(運指表どおり)を吹くと、実音では「シ♭(B♭)」の音が出ます。また、「調子＝E♭」と記してあるアルトサックスやバリトンサックスは「E♭管(エス管)」と呼ばれ、記譜の「ド」(運指表どおり)を吹くと、実音では「ミ♭(E♭)」の音が出ます。通常、サックス用に書かれた楽譜(B♭調、E♭調)を演奏するとき に困ることはありませんが、その楽譜の音をピアノなどで確認するときや、ピアノや歌の楽譜(C調)を使って吹くときには注意が必要です。

マウスピースやリガチャー、リードには種類があるのでしょうか?

付属のマウスピースやリガチャーは標準的なモデルを採用していますが、市販品には多くの種類があり、開きや材質、形状など、また吹き心地や音色もさまざまです。楽器に慣れてきたらいろいろと吹き比べ、ご自分に合うものを探してみましょう。また、リードは厚みや種類で吹き心地や音色がまったく異なり、同じ種類の中でも個体差があります。消耗品ですのでいろいろなものを試して、まずは一番吹きやすいと感じるものを使用してみましょう。

修理に出したいのですがどうすればよいですか?

修理依頼の際はご購入いただいた販売店へお持ちください(通信販売等でご購入された場合も、販売店へご連絡ください)。また、ホームページのフォームからもお問い合わせいただけます。
保証期間の内外にかかわらず、保証書に所定事項(ご購入日、お名前、ご住所、販売店欄など)をご記入の上添付してください。また、故障内容の詳細を明記し、お手入れ用品などの周辺小物は取り出しておいてください。有償修理となる場合は、楽器をお預かりの上で見積もりをご案内させていただきます。